

## 五行詩

□所要時間	60分～90分程度
□主なスキル	内容理解、文法（品詞）
□形式	例）個人 + 4人のグループ/クラス全体
□概要とねらい	
<p>多読で読んだ本の内容理解は Q&amp;A 形式で確認することが多いのですが、本の世界観や、読み手が注目した点を知りたいとき、あるいは読み手が何に注目したかを伝えたいときに五行詩という表現形態はたいへん有用です。</p> <p>このアクティビティでは、一つの活動で言語と非言語の使用と表現、両方に焦点を当てるのが可能です。英語初心者の場合、品詞の理解が不確かなことがあります。五行詩では以下に示すよう指定の品詞を必ず使うというルールがあるため、学習者自身だけでなく、指導者も学習者の品詞理解度を容易に確認することができます。</p>	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はがきサイズの白紙カード</li> <li>・ 文具（マーカー、色鉛筆、クレヨン、絵の具、コラージュ用の色紙や写真、糊、ハサミ等）</li> <li>・ 辞書（英和・和英）</li> <li>・ 五行詩で取り上げる本</li> </ul> <p>（オプション：書画カメラ、PC、プロジェクター、テーブルクロス、色模造紙）</p>	
□手順	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業参加前に今まで読んだ本の中からお薦めの 1 冊を選び、再読しておくよう課題を出す。その際、あらすじや要旨を確認するだけでなく、その本のテーマ、内容、世界観を捉えておくよう伝える。また、次回の授業で五行詩カードをつくるため、上記の準備品を持参するよう伝える。</li> <li>2. 五行詩作品をいくつかスライド等で示し、紹介する本のテーマ、内容、世界観を表す語彙を以下の条件で 5 行に配置するよう説明する。1 行目に名詞 1 語、2 行目に形容詞 2 語、3 行目に動詞 3 語、4 行目に 1 文（オリジナルの文、あるいは紹介する本からの引用文）、5 行目に本のタイトルを配置する（以下の「スライド例」および「その他備考」参照）。</li> <li>3. 各自、選定しておいた本を紹介する五行詩を創作する。品詞理解に不安がある学生が多いクラスでは選んだ単語の品詞を辞書で確認するよう伝える。必ず、何回か推敲すること、その過程で音読し、韻を踏むなど英語のリズムを確認することも薦める。教師は机上巡回し、品詞や語の選択に関して助言を行う。</li> </ol>	

4. 創作した詩に合ったデザインをノート等に下書きし、白紙カードに自由に挿絵等を加えて詩を書き入れ完成させる。本活動は美術やデザインの授業ではないため、必ずしも「美的完成度」を求めることが目的ではなく、紹介する本の内容や世界観を一番魅力的に伝えることを目的とすると強調する。フォント、色、デザイン等の非言語情報を変えることで、同じ詩（文字情報）も異なる印象を与えることができることを説明する（以下の説明用スライド参照）。

※ 詩、カード（スライド）の創作は授業外課題にすることも可能。

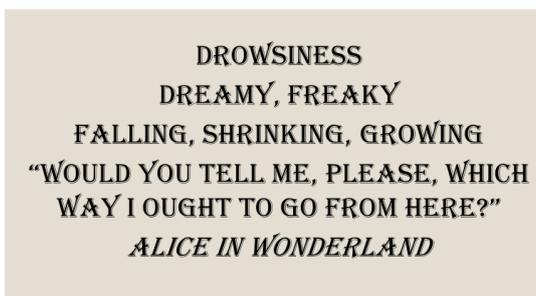
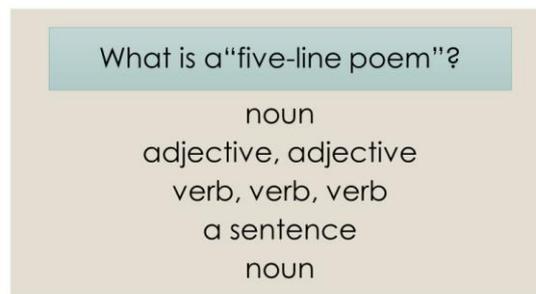
※ 小グループ内で、五行詩カードを見せながら2～3回自作の詩を読み上げる。さらに、作詩のポイントを解説する。あるいはクラス全体を対象に1人ずつが書画カメラを用いて五行詩カードを見せ、朗読と解説を行うことも可能。

5. 教室内の机や壁に全員のカードをディスプレイし、ギャラリータイムを行う。机の場合、カードが引き立つ色のクロスや色模造紙を敷く。カードと紹介本を一緒にディスプレイしてもよい。壁に掲示する場合は壁に直接掲示してもよいが、色のついた模造紙を貼り、その上にカードを掲示するとギャラリーの雰囲気づくりになる。ギャラリータイムの時間は、各自自由にスペースを回遊し鑑賞を楽しむ。シールやキャンディーを使って人気投票を行うのも一興。

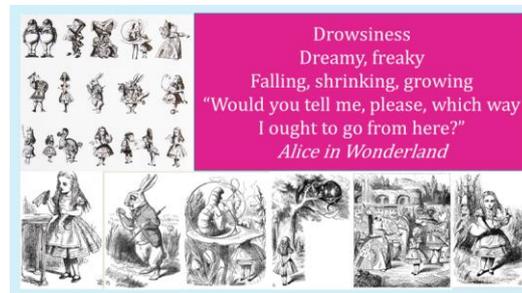
※ 遠隔授業、授業外でのギャラリータイムでは、Google Jamboard<sup>®</sup>や Padlet<sup>®</sup>などの付箋アプリを使用して閲覧することも可能です。コメントも付記できる。

※ POP のバリエーションとすることも可能。また、以下の説明スライドのように PowerPoint<sup>®</sup>スライドを利用する方法もある。

#### 説明スライド例



*Drowsiness  
Dreamy, freaky  
Falling, shrinking, growing  
"Would you tell me, please, which way I  
ought to go from here?"  
Alice in Wonderland*



### 【学生の反応】

- ・ 英語で詩を書く事はないので、よい経験になりました。動詞を3個考えるのが難しく詩を完成させるのに時間がかかりました。もっと英語の詩を読みたいと思いました。
- ・ 英語の文章を考えるのは大変だったが、アウトプットの勉強になり良かった。
- ・ 自分の書いたポエムをサポートする絵があると段違いに良くなる。世界感がより分かりやすい。
- ・ 俳句や短歌もそうだけれど、型にはめると結構詩が作りやすいと感じた。ただ、これも俳句、短歌と同じで凝った物を作ろうとすると果てがない。
- ・ 制約があるからこそ、その中でどのような言葉を使えば上手く伝わるのか考えた。その結果、本への理解が深まった。人それぞれ構図や言葉の使い方に工夫が見られて面白かった。
- ・ セレクトする単語やイラストが様々で面白かった。短くても本を表現できるのだと新しい表現方法が味わえた。
- ・ 短い詩で、本の面白さや良さを伝えるのがとても難しかった。デザインもどの部分を

描けばよいのかを考えて完成させるのが大変だった。ギャラリータイムでは同じクラスの人々の作品が見られて良かった。

- ・ 皆、自分には無い考えを持って作品を作っていて「すごい！」と思う所が多々あった。

### 【応用・解説】

創作した詩に合わせてデザイン、フォントを工夫して五行詩カードやスライドを作ると、以下のように多彩な活動を展開することが可能です。

- (1) ブックトークの視覚資料に
- (2) 教室や図書館多読コーナーの図書案内 POP に
- (3) 五行詩コンテストの作品に
- (4) ICT と組み合わせた活動に

外国語教室では、しばしば英語力・スキル、対人コミュニケーション能力に苦手意識を持つ学生の存在感が小さくなりがちです。このアクティビティの良い点は、そのような学生が素晴らしい表現力を発揮して、自然な形で周囲から肯定的な反応や評価を得る機会を得られることです。他者の承認と自己肯定感によって多様性を受け入れるグループ・ダイナミズムが醸成されます。このような温かい交流は、外国語を学びやすい環境づくりに寄与します。また、英語嫌いの学習者が「英語や多読って、案外面白いかも」と感じるきっかけになります。

### 【その他備考】

日本語の五行詩から派生した英語五行詩の作り方には、いくつかバリエーションがあるようですが（例えば、1行目は1語、2行目は2語、3行目は3語、4行目は4語、5行目は1語など）、私は上記の方法を西野孝子氏より直接学び、多読アクティビティとして応用活用しています。誰でも簡単に詩をつくる楽しみを味わえます。

- ◇ 西野孝子(2004)『英語の授業づくりアイデアブック 12: 中学英語楽しい授業をつくる心とワザ』三友社 pp. 106-107

(文責：草薙優加)